

口頭試問においては、志望動機、出身(在学する)大学での学習内容、希望する専門分野、修了後の進路などについての試問を行う。配点は 150 点である。

志望動機：

1. 近年、人工知能の分野で大きなブームが起こっている。まずは chatGPT。そして、たくさんの店とホテルも既にサービスロボットを採用している。およそ数年の未来で、ロボットは人間と共生することが想像できる。私は大学での専門は機械工学でした。しかし、この AI の世代に生きるのは、機械工学分野で学んだ専門知識足りなくて、もっと AI に関して深い知識を大学院で勉強したいです。そのため、京都大学のシステム科学コースに出願しました。このコースは自分にとって最も相応しい分野と思います。
2. 中国語の環境から離れたたい、日本にはアメリカに比べるとは近いだけでなく、文化も似ている。例えば、去年神奈川で交換留学した後で、日本語も英語ももっと上手になりました。台湾にいと、外国語を話す勇気が出せずに、そのまま中国語を話し続けるのは残念だ。日本にいと、もっと気楽に日本語と英語を話せる。そうすると、日本から世界にいく実力を育てる。
3. 日本と台湾は友好的である。しかし、私の周りが見えるのはお互いの国への旅行だけ。他の研究分野で交流することがあるかもしれませんが、機械工学分野には少ないと思います。自分の狙いは、遠い未来で少なくとも交流のチャンスを作りたい。そしたらお互いの機械研究分野を繋ぐ。

—

大学での学習内容：

過去の研究内容には、自律走行ロボット (AMR)、ドローン (UAV)、風力で動く車、玉突きができる車があります。以上研究は、様々な理論知識が必要とされる。私の学科で学んだのは、例えば、機械系の制御理論、設計理論、機構学、機械力学、材料力学、流体力学、そして情報系のプログラミング、データ構造。以上の専門知識があれば、ロボットの設計、プログラミング、制御、は一人でもできるは過言ではない。しかし、今の自分はまだまだです。で、大学院でさらに自分の実力を磨き上げたいと望んでいる。

—

希望する専門分野：

学習機械 (森本 淳)、情報数理システム (田中 利幸)、統合動的システム論 (大塚 敏之)、機械システム制御 (東 俊一)、論理生命学 (石井 信)

学習機械：強化学習

情報数理システム：機械学習、深層学習

統合動的システム論：非線形制御

機械システム制御：群知能

—

修了後の進路：

私の目標の一つは、台湾のロボット分野に影響を与えることです。そのため、大学院を卒業した後、最先端の技術を持つアメリカで働くつもりです。私はボストン・ダイナミクスなどの会社でロボット工学に関連する仕事をしたいと思っています。十分な経験があれば、その知識と技術を持って自国のロボット産業、研究、さらには教育により影響を与えたいと考えています。

